



女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報

ウィメンズブックス

New20号 2006年2月25日

ウィメンズブックストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

目次

巻頭言 『中立のジェンダー、非中立のジェンダー』 木村涼子	(1)
最新刊情報 新刊本を解説付きでご紹介しています	(2)
編集長の著者インタビュー 『ジェンダーの視点からみる日韓近現代史』の日本側編集責任者 鈴木裕子さんに聞く	(13)
ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です	(14)
ビデオリスト	(15)
ウィメンズブックストア TOP5 (11・12・1月)	(16)
Women's Books からの風 『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです	(16)

(本誌内で紹介している価格は、消費税5%を含んでいます)

巻頭言

中立のジェンダー、非中立のジェンダー

木村涼子

(大阪大学大学院人間科学研究科教員)



かつて私は「男女平等」よりも「女性解放」という言葉を好んでいた。また、「ジェンダー学(研究)」よりも「女性学」という言葉を好んでいた。それぞれ後者の方が、何を問題にするのか、何と闘うのかがより明確だと思われたからだ。しかし、フェミニズムや男女共同参画施策に対するバックラッシュが強まっている今、「男女平等」という概念は根本的な問いをはらむものとなり、「ジェンダー」概念はその中立性をめぐる議論の中で焦点化されている。

今、できることは何か。自分にそう問うて、現時点でのバッシング現象の解説とそれへの意見表明として『ジェンダー・フリー・トラブル』(白澤社)*という書物を8人の執筆者とともにつくりあげたが、その結果、再度スタートラインに立ったような感覚をおぼえている。あらためて問われていることがあると感じる。「ジェンダー」は中立な概念なのか。「ジェンダー研究」は、価値中立的な学問なのか。その問いは、フェミニズムとの出会いの記憶に私をつれていく。

子ども時代、マスメディアを通じてウーマン・リブとすれちがい、お約束どおりリブへの偏見を抱いて大きくなった私は、大学であらためて女性解放運動と出会うことになる。その時、女性解放運動はフェミニズムという新しい名前を名乗っていた。私にとってフェミニズムは、運動であり、学習であった。運動と学習は一緒にやってきた。大学生だから勉強するのが生活の柱となって当然なわけだが(ふつうは)、学生運動もすっかり低調となっていた80年代当時、婦人解放論なるものを勉強することは、それだけでも一種の運動みたいなものだった。学習を通じて女性解放運動と出会い直した私が最初におこなった運動の一つは、女性(解放)論の開講を大学に要求するというものだ。「女性論を勉強させろ」という、実に大学生らしい運動だった。「大学生らしい」というのは自嘲表現であるが、しかし、そのころはまだ女性論や女性学は大学では見慣れない言葉だった。大学でそれらを学ぶ機会はいまに限られていた。「学ばせろ!」という声は、切実かつ正当な要求でもあった。

私自身が80年代初頭の運動の中で使ったのは「女性(解放)論」という言葉だったが、その頃、学問としての位置づけを明確にした「女性学(Women's Studies)」が台頭しつつあった。女性学は、フェミニズムの運動と思想が学問分野において像を結んだものだ。女性学とは女性による女性のための学問であり、それは自由と解放を目指して闘う姉妹の身体として、私にイメージされている。女性学においては、運動と学問は一体化している。価値中立的な学問という観念は否定されるべきものだ。価値中立の名の下に性差別を正当化してきた学問の歴史を否定するために。

その後「ジェンダー研究(Gender Studies)」という言葉が日本に導入された時期、当初は女性学よりも「一般受け」「男性受け」「アカデミズム受け」する印象をもった記憶がある。ジェンダー研究が運動とは距離をおいた価値中立的な学問として発達し、女性学によって大事にされてきた運動との絆を失っていくのではないかとこの危惧をふと抱くことがあった。しかし、ジェンダー概念を用いた理論や調査研究を学び、自ら実践するにつれて、そうした危惧は消えていった。ジェンダーが、性差別をビルドインした社会システムを分析するために用いられる概念であるかぎり、性差別に対する闘いと無縁な文脈にとどまることはあり得ない。

「偏った価値観」として「ジェンダー」を攻撃する動きが、初等中等教育から高等教育へと拡大している。最新の出来事としては、上野千鶴子さんの講演に対する東京都の介入問題が想起される。上野さん本人の公開質問をきっかけに多くの方が抗議行動に参加しているが、私もこの問題のゆくえを自分自身に関わることとして見守っている。

女性学やジェンダー研究は、「学問の自由」の名においてのみ、守られるべきものではないし、守り得るものでもない。今後、そのことが一層問われ続けることになるのだろう。

(※2ページに本の紹介があります)

最新刊情報

フェミニズム・女性学…… (2)	こころ・癒し…… (6)	自伝・評伝…… (10)
労働・仕事…… (3)	セクハラ・暴力…… (7)	高齢・福祉…… (10)
法律・政治・政策…… (4)	セクシュアリティ…… (8)	平和・開発・エコロジー…… (11)
家庭・家族・衣食住…… (4)	女性史・歴史…… (8)	メディア…… (12)
子育て・教育…… (5)	文学・エッセイ・芸術…… (9)	資料・雑誌…… (12)
からだ…… (6)		



〔フェミニズム・女性学〕

女性の身体と人権 性的自己決定権への歩み



若尾典子 / 著 学陽書房
2005年10月 2625円

中絶、DV、買売春、そのすべてが、女性の身体を自らの手に取り戻す「性的自己決定権」の問題である。本書では、近代日本を貫く「女性の身体」観を検証し、性的自己決定権確立の方向性を提言する。

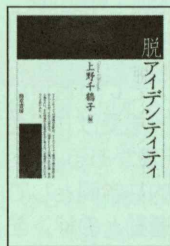
かけがえのない、大したことの無い私



田中美津 / 著 インパクト出版会
2005年10月 1890円

‘ウーマンリブの田中美津’さんの代表的評論や対談をまとめたもの。タイトルがいい。もちろん中味も。最近では「ミュージカルくおんなの解放」ビデオの再上映も活発に行われている。プレないで「私からの発信」をず〜っと続けているのはさすが。

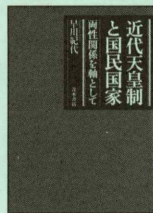
脱アイデンティティ



上野千鶴子 / 編 勁草書房 2005年12月 2625円

20世紀を席捲した「アイデンティティ」という概念は、もはや有効期限切れの概念であり、本書は「『アイデンティティ強迫』に憑かれた近代社会および近代社会学理論へのレクイエム」なのだと言編者。気鋭の社会学者9人が、多方面から「脱アイデンティティ」を論じて壮観。上野のほか、千田有紀、小森陽一、斉藤環、平田由美など。

近代天皇制と国民国家 両性関係を軸として



早川紀代 / 著 青木書店
2005年12月 4725円

女帝の否定、女性の政治からの排除を決定づけたのが皇室典範と家族法。その成立過程を男女の関係を軸として分析すると、近代国家の法制度の二重構造が見えてくる。

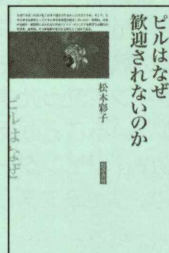
ジェンダー・フリー・トラブル バッシング現象を検証する



木村涼子 / 編 白澤社 / 発行 現代書館 / 発売
2005年12月 1890円

この時期に「果敢な」タイトルの本が出た。現在、日本でおきている「ジェンダー・フリー」という言葉を巡る「トラブル」現象に切りこんでいる。そもそもこの「トラブル現象」を巡る言説には、誤解、曲解を含むものも多い。何が起きているのか、背景は何か、とまどっている人も多いだろう。そんな人にお薦め。(巻頭言参照)

ピルはなぜ歓迎されないのか



松本彩子 / 著 勁草書房 2005年12月 2730円

日本でピルが認可されたのは1999年、審議に10年を要し、諸先進国より約30年遅れている。かつ、今だに、政府にも国民にも「アンチ・ピル」の傾向が強いという。なぜなのか。この背景を歴史的、運動論的に多方面から分析したのが本書である。著者24才、新進の研究者。確かな鋭い記述が、今後を期待させる。

国際関係論とジェンダー 安全保障のフェミニズムの見方

J. アン・ティックナー / 著 進藤久美子・進藤榮一 / 訳
岩波書店 2005年11月 2835円

国際政治学の分野に女性研究者が少ないのはなぜか。本来「平和で公正な世界」の形成を目的としたはずのこの分野にもジェンダーの階層性をなくした視点からの考察が必要だと、その再編成の方法を提言する。「国際政治は男だけに任せるにはあまりにも重大すぎる」と。

教育とジェンダー形成 葛藤・錯綜 / 主体性

望月重信・近藤弘・森繁男・春日清孝 / 編著

ハーベスト社 2005年10月 2310円

「ジェンダーと教育研究会」の研究成果が本になった。第一章：見えないジェンダー 第二章：幼児期におけるジェンダー形成と子ども文化 第三章：中学生の性教育とセクシュアリティ形成 など



朝鮮女性の知の回遊 山川歴史モノグラフ⑩ 植民地文化支配と日本留学

朴宣美 / 著 山川出版社 2005年10月 5250円

戦前、日本に留学した朝鮮人女子学生の実態と日本での経験、帰国後の軌跡などを扱った本格的な研究書。植民地と帝国の「知の回遊」はもともと一方通行のもの。そうした中、女性であるこそ学んだ「知」とその「知」の獲得により果たした役割のあり様を、ジェンダー視点から分析している。

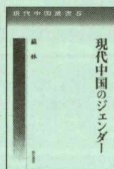
円環する男と女 両性具有の時代へ

加藤清・宮迫千鶴 / 著 春秋社 2005年11月 1890円

両性具有とは、「男女の両性が力動的に相互関連し、在り合っていくこと」。女性の男性化、男性の女性化ではない。本書は「両性具有」をめぐる精神科医とアーティストの対話集。男女の両者が男性性・女性性として融合し、「在り合う」のが今後の方向だと。

現代中国のジェンダー

蘇林 / 著 明石書店 2005年12月 1890円
 中国人女性学者が書いた現代中国のジェンダー論。95年の第4回世界女性会議以降のジェンダー研究の隆盛をふまえている。長く偉大な歴史と共産主義思想・政治状況の影響など、興味深い。



水子 <中絶>をめぐる日本文化の底流

ウィリアム・R・ラフルーア / 著 森下直貴・遠藤幸英他 / 訳
 青木書店 2006年1月 3990円
 和辻哲郎文化賞を外国人として初めて受賞したアメリカ人仏教思想家が、日本人の<水子>観を考察。アメリカでは先鋭的な政治問題である「中絶」が、日本ではなぜぼんやりとしているのか。殺生を禁じながら<水子供養>を行う日本仏教の生命倫理観とは？



差別論 偏見理論批判

佐藤裕 / 著 明石書店 2005年12月 2940円
 性差別、民族差別、部落差別など、さまざまな差別問題の共通点を「差別する側」に着目し、「理論」と「事例」の両面から考えている。

ジュディス・バトラー シリーズ 現代思想ガイドブック

サラ・サリー / 著 竹村和子他 / 訳
 青土社 2005年12月 2520円
 『ジェンダー・トラブル』の著者ジュディス・バトラー理論の入門書。難しいとされる理論を、主体、ジェンダー、セックス、言語などのキーワードにそって解説している。

ジェンダーと教育 理念・歴史の検討から政策の実現に向けて

生田久美子 / 編 東北大学出版会
 2005年12月 2310円
 世界最高水準の研究教育拠点形成を目標とする21世紀COEプログラムの拠点のひとつとなった東北大学「男女共同参画社会の法と政策」の研究成果である。ジェンダー・センシティブな人材を育成する教育原理、教育制度の確立に向けた各方面からの最新の研究成果が並べられている。



ジェンダーと史的唯物論

鯉坂真 / 著 学習の友社 2005年12月 2520円
 史的唯物論の立場から、ラディカルフェミニズム、マルクス主義フェミニズムを考察。科学的社会主義はフェミニズムからの問題提起をどう受けとめるか。

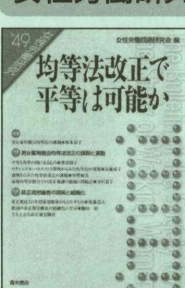
〔労働・仕事〕

ハードワーク



ポリー・トインビー / 著 棕田直子 / 訳
 東洋経済新報社 2005年7月 1890円
 英国人女性ジャーナリストが、公営福祉団地に住み最低賃金の職場で働いた体験をまとめた。サッチャー改革がもたらした格差と不平等の中での「固定化された貧困生活」。日本の姿をみているような。

女性労働研究 No.49 均等法改正で平等は可能か



女性労働問題研究会 / 編 青木書店
 2006年1月 1575円
 国会で2度目の改正がなされようとしている男女雇用機会均等法。今回の特集1は、その改正の「課題と運動」に焦点をあてている。男女双方への適用、間接差別、ポジティブ・アクション、救済措置など。ジェンダー平等をめざす際には必須な法的制度の解説が展開されている。

女職人になる

鈴木裕子 / 著 アスペクト 2005年11月 1365円
 江戸切子、結城紬、京竹芸など「和の仕事」に職人として入った女性たちが登場。子どもを産むから修業は続かないといわれたこの世界で立派にやっている彼女たち。共通項は「好きだから」。問題は修業中の「お金」だという。



仕事とくらし ふたつの鍵を手にしたら

一田恵子 / 著 主婦と生活社 2005年12月 1365円
 カフェ、古道具屋など、「自分のお店」を持った女性店主たちのお話。

キャリア形成 個人・企業・教育の視点から

川端大二・関口和代 / 著
 中央経済社 2005年9月 2940円
 キャリア形成について、人的資源管理、企業内ジョブローテーション、キャリアカウンセリングなど、多方面から言及されている。キャリア形成とは、自律的キャリア形成という課題の問題であり、人生とのかかわりの問題である。

その仕事、好きですか？ 2

南ゆかり / 著 ワニブックス 2005年12月 1260円
 「好き」を基準に仕事につき、恋愛すること、母になること、暮らすことを選択した女性たちのインタビュー、第2弾。

佐々木かをりの手帳術 アクションプラン時間管理で人生がハッピーになる

佐々木かをり / 著 日本能率協会マネジメントセンター
 2005年11月 1470円

著者は㈱イー・ウーマンの代表。説得力ある時間管理術だ。

女性の仕事全ガイド 2007年版

成美堂出版編集部 / 編 成美堂出版 2006年1月 1260円
 ページごとに仕事の収入、将来性、適性などを紹介。

働く過剰 日本の<現代> 12 大人のための若者読本

玄田有史 / 著 NTT出版
 2005年10月 2415円
 「失われた10年」は、若者を育てることに社会が自信を失っていった10年だったと著者。個性重視、自己実現、対人能力への偏重が若者たちを追いつめているという。一方で、企業における男女共同参画は発展のキーワードだとも。



団塊世代のライフデザイン 決して一律でない就業志向と、夫婦間の思惑の差

佐藤博樹・佐藤厚 他 / 著
 中央法規 2005年12月 1890円
 「07年問題」を前に、「団塊の世代」自身が高齢期のライフデザインをどのように描いているかを調査した報告書。夫婦就労型、公務員、民間企業雇用者など、様々な角度から調査、考察している。

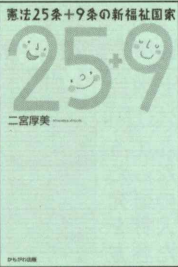
私の仕事 私の働き方 72人の女性の現場報告

働く女性のネットワーク「よこの会」 / 編著
 講談社 2006年1月 1575円
 働く女性のネットワーク「よこの会」が3年間にわたって213人の働く女性にインタビュー。その中から72編を選び、上梓している。女性の底力を感じる。

〔法律・政治・政策〕

憲法25条+9条の新福祉国家

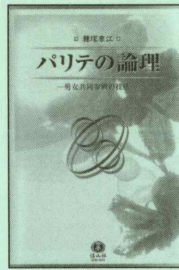
二宮厚美 / 著 かもがわ出版 2005年8月 1785円



「福祉国家か戦争国家か」の対決の中で「福祉国家」派が勝利した第二次世界大戦。今、新自由主義的再編が進行する中「新自由主義か新福祉国家」かが問われていると、著者。憲法25条の生存権は「福祉国家」日本を保障し、「9条を守る」きわめて今日的な権利なのだと言主張する。

パリテの論理 男女共同参画の技法

糠塚康江 / 著 信山社 2005年11月 3360円



「パリテ」とは「男女同数」を表わすフランス語。フランスでは2000年に男女共同参画法（通称パリテ法）が成立。あらゆる分野における性の偏在を克服することが政策課題として明確に打ち出された。「パリテの論理」とは何で、日本の「男女共同参画」にどう資するのか。

戦争と憲法危機の時代に政治をあきらめない 話せば元気がわいてくる 福島みずほ対談集

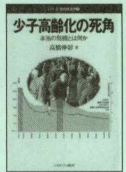
福島みずほ / 著 明石書店 2005年10月 1890円
『月刊社会民主』で月1回連載した対談が一冊になった。小室等、香山リカ、大沢真理、小倉利丸などなど、視点にぶれがない個性派25人との対談。

下流社会 新たな階層集団の出現

三浦展 / 著 光文社 2005年9月 819円
この本での「下流」とは「下層」ではなく、所得でいったら「中の下」くらい。コミュニケーション能力、生活能力、働く意欲などの人生への意欲が低い人のこと。「下流社会」とは具体的にどんな社会で、それにより価値観はどう変わりつつあるのだろう。

少子高齢化の死角 本当の危機とは何か

高橋伸彰 / 著 ミネルヴァ書房 2005年10月 2625円



様々に論じられている少子高齢化についての論点を、別の角度から考察。例えば、雇用機会均等法や育児休暇制度の導入は、「産む自由」を本当に拡大しているのだろうか。

団塊新現役世代 NPO に生きる

米田雅子・田中義幸・野呂法夫 / 著
ぎょうせい 2005年10月 1800円
定年を迎えつつある団塊世代に、NPO 活動のススメ。

〔家庭・家族・衣食住〕

離婚後の親子たち

氷室かな / 著 太郎次郎社 2005年12月 1890円



夫婦関係の解消はどんどん簡単になっているが、親子関係はそうはいかない。離婚したとたんに二つに一つを選らばざるをえない離婚のカチはどこかびつたと著者。離婚後の親子のかかわり方モデルがあまりにも少ないともいう。

迷走する家族 戦後家族モデルの形成と解体

山田昌弘 / 著 有斐閣 2005年11月 1995円



『パラサイトシングルの時代』『希望格差社会』の家族社会学者が、いま家族に起きていることにズバリ、切り込んでいる。家族の階層化が進み、ものすごい勢いで「迷走」しているといえるようだ。

パリの女は産んでいる <恋愛大国フランス> に子供が増えた理由

中島さおり / 著 ポプラ社 2005年11月 1575円



先進国の中で唯一出生率が上昇している国がフランス。新生児の45%が婚外子だという。フランスに長く暮らす著者がその理由を報告。「一人の人間として自由に生きることが自然なら女は子どもを産む」と。

明治の結婚 明治の離婚 家庭内ジェンダーの原点

湯沢雅彦 / 著 角川書店 2005年12月 1575円



明治時代の離婚率は、半ば過ぎまで現在の1.5倍。それが、ある時以降、急に低下する。明治の夫婦の実像をみていくと、社会の状況によって変化する「家庭内ジェンダー」の様子があらわになる。こういう議論を経ないで「日本の家族の伝統」を主張してはいけない。

「結婚生活」って何？

喜多嶋洋子&アグネス・チャン / 著 講談社 2005年10月 1470円

子育てに関していえば、芸能人といえども華やかさとは無縁。専業主婦と「子連れ出勤」という違う立場の喜多嶋洋子（内藤洋子）とアグネス・チャンが、それぞれの結婚生活をかなり赤裸々に。

ちょっと待ってその離婚！ あなたはそれで幸せになれますか？

岡野あつこ / 著 実業之日本社 2005年12月 1470円
離婚するにしても思いとどまるにしても、後悔することがないように、離婚カウンセラーが語ります。

男が家事をしないほんとうの理由 幸せな家庭の条件

淵上勇次郎 / 著 東京図書出版会 / 発行
リフレ出版 / 発売 2005年10月 1000円

書名とはちょっと違って、「男も家事をするように!」の本。夕食メニュー一例までついています。

ネットワークとしての家族

吉田あけみ・山根真理・杉井潤子 / 編著
ミネルヴァ書房 2005年12月 2940円
多様性と複雑さがますます増大する現代の家族を考えようという本。その視座が「ネットワークとしての家族」なのである。家族とは、「個人を支えるネットワーク」のひとつなのではないかと、著者たち。



国民国家と家族・個人

比較家族史学会 / 監修 田中真砂子・白石玲子・三成美保 / 編 早稲田大学出版部 2005年9月 4200円
比較家族史学会では、近代国家における「家族」の「脱制度化」について研究大会を開いた(2000年)。そこでの報告を整理し、本シリーズの一冊として刊行した。

日仏カップル事情 日本女性はなぜモテる?

夏目幸子 / 著 光文社 2005年10月 735円
20組に1組が国際結婚の時代だが、最近増えているのがフランス人男性と日本人女性のカップルだとか。なぜか? 日仏カップルという切り口から見る日本人女性の抱える意識は、意味深い。

介護と家族 シリーズ比較家族第Ⅱ期 4〔新装版〕

比較家族史学会 / 監修 山中永之佑・竹安栄子・曾根ひろみ・白石玲子 / 編 早稲田大学出版部 2005年12月 4410円
比較家族史学会研究大会のシンポジウムをもとに書き下ろした「家族と介護」論。第一部:現代の介護をめぐる課題 第二部:介護とジェンダー。

家裁弁護士 ミモザの花言葉のように

平山知子 / 著 新日本出版社 2005年10月 1470円
世間のすきまにひそむ人生のあれこれが凝縮される「家庭裁判所」。そこで扱った6件の事件を弁護士が報告する。家族、親族内の個人的な人間関係の中で起こる事件ではあるが、背後には必ず社会的問題がひそんでいる。

これで万全 離婚の手続きとすすめ方

比留田薫 / 監修 主婦の友社 2006年2月 1470円
離婚する前に知っておきたいことをわかり易く解説。

何が彼女をそうさせたか 東京のある街角、ホテルに向かう人妻たちの素顔

本橋信宏 / 著 バジリコ 2005年12月 1575円
「人妻」の女性が在籍し、電話リクエストに応じて派遣されていく「人妻ホテル」。そこでアルバイトする20人の「人妻」に、インタビューした報告。彼女たちに共通するのは、たくましい生命力だというのが。



家族の痕跡 いちばん最後に残るもの

斉藤環 / 著 筑摩書房 2006年1月 1575円
便利であって不便、はかなくとも不滅、親密にして疎遠など、家族には多くの矛盾と逆説が詰めこまれている。そうした家族のリアリティを精神科臨床医が記述。

アメリカの児童相談の歴史 児童福祉から児童精神医学への展開

キャスリーン・W・ジョーンズ / 著 小野善郎 / 訳 明石書店 2005年11月 5040円
20世紀前半のアメリカにおける児童相談運動の歴史がまとめられている。社会的混沌の中から、子どもへの支援を築き上げていった運動の歴史であり、今日的意義も大きい。

〔子育て・教育〕

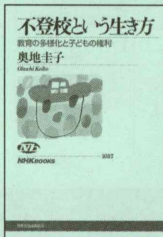
子どもが壊れる家



草薙厚子 / 著 文藝春秋
2005年10月 735円

著者は、少年鑑別所、元法務官。少年犯罪被害児童の育成歴にせまっている。親の過干渉とゲームの悪影響が共通項だという。犯罪の低年齢化が問題になっているが、それを厳罰化で解決しようとしてはいけないことがよくわかる。

不登校という生き方 教育の多様化と子どもの権利



奥地圭子 / 著 日本放送出版協会
2005年8月 966円

フリースクール「東京シュレー」の開設者が、改めて、不登校を論じている。「学校のみ」の発想から抜け出し、生き方の選択が本に行きできる時、不登校はなくなるはずと。

Job et Baby 仕事と子育て—ママになったクリエイターたち

三好博子 / 編著 径書房 2005年9月 1470円
スタイリスト、俳優、デコレーターなど、クリエイティブな仕事とママ業を両立させている女性たちにインタビュー。「成功物語」ではなく、「自分なりの生き方をしている人のドキュメンタリー」だとは著者の弁。



親にも言わせろ! 「教育改革」

田中喜美子 / 著 教育史料出版会
2005年11月 1575円
万事を文部科学省や日教組ばかりが決めるのではなく、親にも決めさせるべきだ、と著者。親の願望は「ふつうの子」が一人一人大切にされ、「生きる力」を身につける教育であると説く。

現代保育と子育て支援 保育学入門

亀谷和史 / 編著 八千代出版 2005年10月 2520円
これから保育、幼児教育を学ぼうとする人に向けた入門書。

「忙しい!」を誰も言わない学校 異学年学習・ジェンダーによる学校まると処方箋

西川純 / 著 東洋館出版社 2005年12月 1890円
教師が忙しくて、ボロボロになりかけている今。「忙しい」のは「ネットワーク」の問題だと提起する。

犯罪から子どもを守る50の方法

国崎信江 / 著 ブロンズ新社 2005年12月 1365円
誘拐、性犯罪、ネット犯罪から子どもを守るための防犯対策を危機管理対策アドバイザーがまとめた。

子育て世代、応援します! 保育と幼児教育の場で取り組む「親の支援」プログラム

加藤邦子・飯長喜一郎 / 編著 ぎょうせい 2006年1月 2300円
28年間にわたって親子教室を開いてきた経験をふまえ、育児支援プログラムの考え方、進め方の実際をのべている。

幼い子どもを犯罪から守る 命をつなぐ防犯教育

岡本弘子・桐生正幸 / 著

北大路書房 2006年1月 1680円

「信頼できる大人」と「危害を加える大人」の両方があることを、子どもたちにどう伝えるか。具体的な手立てやヒントが詰まっている。



魔法の子育てカウンセリング お母さんのイライラがニコニコに変わる

阿部秀雄 / 著 カンゼン 2006年2月 1365円

子どものころ満たされなかった「インナーチャイルド」を癒すと、子どもを大きな心で包むことができるようになるという。「おとなの心」になる方法の伝授。

ママは育児にあわてない ためき先生の子育てライブ相談室

毛利子来 / 著 ぶんか社 2006年1月 590円

夜鳴き、しっしんに始まってはしか、アトピー、ひきつけ…と数えあげるとキリがない赤ちゃんの症状に、定評ある小児科医が処方箋を。

パーフェクトペアレント

佐藤綾子 / 著 講談社 2005年11月 1260円

子どもに安心とはげましを与えようと。

ワーキングマザーの妊娠・出産・育児 子育てしながら仕事を続けたいママへ

河野真理子・安藤博子 / 監修

成美堂出版 2005年12月 998円

妊娠、出産、仕事への復帰の道筋について、ワーキングマザーの身になって解説。

【からだ】

イブに生まれて こんなに違う女の医療と男の医療

マリアン・レガト / 著 下村満子 / 監訳 山田睦子 / 訳

健学社 2005年9月 2100円



ジェンダー・スペシフィック・メディシン（性差に配慮した新医療）についての本。男性と女性は生殖機能だけでなく、あらゆる組織で人間生理学的な有意差があるので、医療そのものも根本的に違えなければならないという。アダムには効いてもイブには効かない薬があるというのだ。

骨盤教室

寺門琢己 / 著 幻冬舎

2005年6月 1260円



評判の「KOTSUBAN教室」を主宰する著者が、カリキュラムを公開。イラスト入りでとてもわかりやすい。生理不順、冷え症、肩こりの予防にやってみようという気になる本です。

不安と疑問に答える＜不妊＞をまねく感染症

野口昌良 / 著 風媒社 2005年11月 1260円

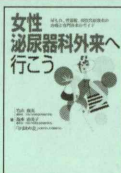
若い女性を中心に100万人を越える人がクラミジア感染症にかかっているという。これは「若者の生活習慣病」なのだと著者。避妊を招くこの病気の実態と予防法を産婦人科医が解説。

女性泌尿器科外来へ行こう

竹山政美・福本由美子・ひまわり会 / 著

法研 2005年12月 1575円

この本を読むと「たかが尿もれ」とあなどってはいけなことがわかる。そして、女性の場合、骨盤底の障害に原因がある場合が多くて、それは婦人科と泌尿器科の境界領域の病気なのだそう。



女性医師からのメッセージ 医系キャリアアップの道しるべ

津田喬子 / 編著 真興交易（株）医書出版部

2005年12月 2625円

医者としてキャリアを積んできた女性たちが、後輩たちに贈るキャリアアップの道しるべ。女性医師のロールモデルをみつめてほしいとの願いがこめられている。

乳ガン110番 第2版 最新国際ガイドラインをやさしく解説

南雲吉則・岩瀬哲 / 著 日刊工業新聞社

2005年11月 1470円

乳ガンの最新治療法をやさしく解説している。

【こころ・癒し】

男の電話相談 男が語る 男が聴く

『男』悩みのホットライン / 編

かもがわ出版 2006年1月 630円

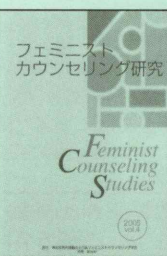
男性が男性の悩みを聞く「『男』悩みのホットライン」。確かに必要な活動である。ホットライン開設10年を経て、担ってきた人たちが、その活動を報告している。



フェミニストカウンセリング研究 vol.4

日本フェミニストカウンセリング学会 / 編

新水社 2005年12月 1890円



日本フェミニストカウンセリング学会の学会誌。論文「『ストーカー行為規制法』の問題点と今後のありよう」（石田邦子）、研究ノート「女性格差から見る女性福祉の包括的視座への提案」（神山典子）、報告、書評など。着実に巻を重ねている。

新 主人在宅ストレス症候群

黒川順夫 / 著 双葉社 2005年10月 1575円

退職して夫が家にいるようになって、妻のストレスがたまってしまう症状(?)を分析。ベストセラーの前著以降、この症状はますます増えてきているそう。心理療法だけでなくさまざまな問題だとは思えないが、参考にはなるかも。

アディクションと家族 Vol.22 No.3 記憶戦争をめぐる

家族機能研究所 / 編 ヘルスワーク協会

2005年11月 1680円

「日本で過誤記憶を語るということ」（斉藤学）「臨床現場における過誤記憶と回想」（平川和子）など。

教師・親のための子ども相談機関利用ガイド 新版 もうひとりで悩まないで!

小林正幸・嶋崎政男 / 編

ぎょうせい 2005年11月 2600円

トラウマがある、学校でしゃべらない、いつもひとり、暴力をふるうなど、子どもをめぐる問題は多種多様。どこに相談に行ったらいいか、どう対応するか、この本が教えてくれます。行き届いた仕上がりで、役に立ちそう。



この社会の歪みについて 自閉する青年、疲弊する大人

野田正彰 / 著 ユビキタ・スタジオ / 発行

KTC中央出版 / 発売 2005年8月 1260円

正社員になれば長時間労働に縛られ、それを知っている若者はニート、フリーターになっていく。青年は自閉し、大人は疲弊した今の社会を息苦しくない社会に変える主体は?

ひきこもりと家族トラウマ

服部雄一 / 著 日本放送出版協会 2005年7月 693円

100万人ともいわれる「ひきこもり」は、欧米には見られない現象で、「日本的な病」らしい。著者はその背景に、ホンネと建前が錯綜する「和の文化」を見る。

心の処方箋 コミック『女医レイカ』に学ぶ

剣名舞 / 著 コマックス 2006年1月 1050円

「女医レイカ」の原作者が、ネット恋愛とストーカー被害をテーマに、「心の問題」に切り込んでいる。香山リカとの対談も。

シングル 自立する女たちと王子様幻想

ジャン＝クロード・コフマン / 著 藤本佳子・阪口勝弘・

神田修悦 / 訳 昭和堂

2006年2月 2520円

99年初版時から注目され、いくつもの国で翻訳された原著の邦訳版。今日最も強い幻想のひとつが「自分自身でありつづけながら生活の中にパートナーを加えることができる」と考えることだとか。さて、その上で、どうする?



まわりにあわせすぎる人たち

名越康文・ロブ@大月 / 著 IBCパブリッシング / 発行

洋販 / 発売 2005年12月 1365円

「まわりにあわせすぎる＝過剰反応」についての考察。「父親の孤独」「母親の孤独」「あわせすぎる子ども」

〔セクハラ・暴力〕

バーンサバイ タイ・エイズシェルターからの便り

塩見誠 / 著 アットワークス 2005年7月 1575円



書名の「バーンサバイ」とは、タイのチェンマイに開設されたHIV感染者、AIDS患者のためのシェルター。そこの日本人スタッフがまとめた、日本社会への通信が本書。設立から2004年末までの記録が掲載されている。「買う」方の国になってしまっている日本。しかし、現地で地道に活動する日本人もいるのである。

検証 七生養護学校事件 性教育攻撃と教員大量処分の実状

金崎満 / 著 群育社 2005年10月 2100円



一議員により「不適切性教育」と攻撃され、知事や教育長もこれに呼応し、特定新聞社も一緒になって指弾した七生養護学校の性教育。教員の大量処分が発令されるに至ったこの事件の顛末が、処分された教職員、保護者の立場から明らかにされている。現在、支援の輪が広がりながらも、事件はまだ係争中。

二次セクハラ清泉女子大学裁判 大学の責務と文科省セクハラ規程

秦澄美枝 / 著 社会評論社

2005年10月 2940円

2003年11月に教授のセクハラ事件に関して、二次セクハラまで認定した慰謝料支払い判決が東京高裁で下された。「清泉女子大セクハラ事件」として知られるこの訴訟の詳細を記録したのが本書である。



性虐待の父に育てられた少女わたし 蘇生への道

川平那木 / 著 解放出版社 2005年10月 1890円

長い間ゆがめられ、封印されてきた感覚を呼び戻し、カウンセラーたちの助けをかりながら自らを蘇生させた女性の道程。

家庭内で起こる暴力とファミリーサポート 市民サポーターのエンパワメント

山西裕美 / 編著 中央法規 2005年10月 2520円

DVや児童虐待という個別の家族に起こった問題への解決には、地域住民の取り組みによるサポート・ネットワークが有効であるという。痛ましい事件が頻発している今、市民サポーターの力が求められているのだ。

追跡! 「佐世保小六女児同級生殺害事件」

草庵厚子 / 著 講談社 2005年11月 1575円

小学生の少女が同級生をカッターナイフで殺すという佐世保

の事件。著者が気になったのは、この犯罪が「普通の子」の犯行だとされたことだという。そうではなくて犯人A子は、周囲の無関心にさらされてきたのだと、著者は指摘する。

女性のための防犯マニュアル 盗撮・スキミング・ストーカー・泥棒をシャットアウト!

京師美佳 / 監修 造事務所 / 編集・構成

PHP研究所 2005年12月 945円

かつては世界一安全だった国・日本も、今や「わが身は自分で守らなければならない国」に。特に女性がねらわれる盗撮、ストーカーなども数多い。防犯アドバイザーが、犯行手口、予防策を伝授。

児童虐待 心身障害Q&A

田上不二夫 / 監修 黒澤礼子 / 著 黎明書房

2005年11月 1995円

児童虐待の実態、しつけと虐待の違いなどのポイントをQ&A方式でわかり易く展開。

コールガール

ジャネット・エンジェル / 著 那波かおり / 訳

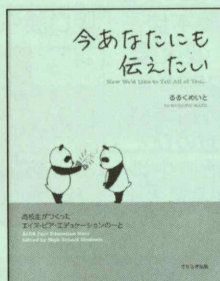
筑摩書房 2006年1月 2310円

人類学博士が昼間は教壇にたちながら、夜はコールガールとして生きていた。その顛末をノンフィクションとしてつづったのが本書。欧米版東電OLか?



〔セクシュアリティ〕

今あなたにも伝えたい 高校生がつくったエイズ・ピア・エデュケーションの一と



るるくめいと / 編 せせらぎ出版

2005年10月 1000円

大阪府立松原高校と松原保健所の連携で生まれたユニークなエイズ・ピア・エデュケーショングループの「るるくめいと」。もう6年の歴史をきざんでいるその活動から見えてきたものが、一冊の本になった。読みやすい文章もイラストも高校生の作品。特に若い人たちに共感をもって受け入れられるだろう

季刊セクシュアリティ No.24

“人間と性”教育研究協議会 / 編
エイデル研究所

2006年1月 1500円



今号の特集は「ワンポイント 性と生の話」。幼児から高校生、障害児、親のそれぞれに向けて、身近なポイントからの“性教育”を展開。

知的障害をもつ子どもの性教育・性の悩み Q&A
第3巻 親と先生のためのQ&A シリーズ

北沢杏子 / 著 アーニー出版 2005年10月 1365円

知的障害を持つ子どもたちが、性被害にあたり性に悩んだりすることはまれではない。この本は幼児から10代までの知的障害の子どもの持つ親や先生に向けて書かれている。

性と生をどう教えるか 第2版

尾藤りつ子・性と生を考える会 / 編著 解放出版社

2005年12月 2310円

メス・オスに本来、優劣はない。文化が男女に優劣をつける。それをどう教え、お互いの性と生の尊厳を伝えるか。

クィア・ジャパン・リターンズ 2005.11 vol.1

伏見憲明 / 編 ポット出版 2005年11月 1890円

東京レズビアン&ゲイパレード2005、レインボーマーチ札幌第9回の写真集が特集されている。

Newton 2006.2 「性」を決めるカラクリ XY染色体

水谷仁 / 編集 ニュートンプレス 2006年2月 1000円

30ページに及ぶ染色体の特集。美しいカラー刷りの図と解りやすい解説で読ませる。

オトコが女になるとき 性転換の幸せ

廣畑涙嘉 / 著 講談社

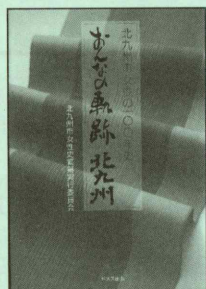
2006年1月 1575円

性同一性障害などの「特殊な個性」のために苦しんできた著者が、生きてきた道筋を語っている。著者は、日本キリスト教団の牧師でもありシャンソン歌手でもある。



〔女性史・歴史〕

おんなの軌跡 北九州 北九州女性の100年史



北九州市女性史編纂実行委員会 / 編

ドメス出版 2005年12月 3150円

北九州の女性たちが、3年がかりで、地域女性史を書きあげた。日本の近代化を支えた鉄都で女性たちはどう生きてきたのか。580ページにわたる大作。資金集めからのすべてを担って出版にこぎつけた女性たちのネットワークはすごい。

ドイツ人女性たちの<誠実> ナチ体制下ベルリン・ローゼンシュトラッセの静かなる抗議

幸津國生 / 著 花伝社

2005年12月 2100円



1943年、ユダヤ人男性と結婚していたドイツ人女性がナチスによる自分の夫の拘束に対して、「夫を返して」と抗議。結果的に夫たちは釈放された。この「市民的勇気」の姿を「誠実」という徳をキーにして解明。日本人が学ぶべき点は多いはずと。

どくふれん 元祖「シングル」を生きた女たち

古庄弘枝 / 著 ジュリアン 2005年10月 1575円

独身婦人連盟、またの名を「どくふれん」。良妻賢母教育のもと「戦争独身」ともいうべき女性たちは「オールドミス」「売れ残り」「行かず後家」という揶揄の中、いつしか「シングルライフ」の先達となっていく。2002年に35年に及ぶ活動を閉じた「どくふれん」であるが、今なおそこに集う人々の晩年は「志縁」で色どられている。



八人の女帝

高木きよ子 / 著 富山房インターナショナル

2005年10月 1680円

史上みられる10代8人の女性天皇について、即位とその生涯をまとめている。女性、男性を問わず、天皇というものは政治に翻弄されるもの。

山内一豊と千代 戦国武士の家族像

田端泰子 / 著 岩波書店 2005年10月 819円

「内助の功」で知られる「山内一豊の妻」であるが、実は二人はパートナー（盟友）であり、戦国武士の夫婦のあり方の典型例であったという。NHK大河ドラマの描かれ方は気になるが。

女帝の歴史を裏返す

永井路子 / 著 中央公論新社 2005年11月 1575円

古代から江戸に生きた八人の女帝たちについて、生涯やエピソードをつづっている。歴史の大きな流れの中に生きた女帝たちの生きざまにせまる。

アメリカの女性の歴史 第2版 自由のために生まれて

サラ・M・エヴァンズ / 著 小檜山ルイ・竹俣初美・知祐人・

宇野知佐子 / 訳 明石書店 2005年11月 7140円

建国から20世紀末までのアメリカ女性の姿をたんねんに追っている。近いところでは、80年代におきたバックラッシュ、その後の女性の再結集などが興味深い。厚い本だが、平易な記述で、どんどん読み進める。

〔文学・エッセイ・芸術〕

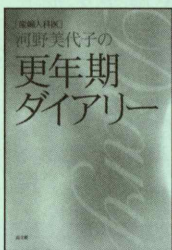
科学史から消された女性たち ノーベル賞から見放された女性科学者の逸話】



大江秀房 / 著 講談社
2005年12月 1029円

2004年はノーベル賞受賞者12名のうち女性が3名含まれていた年。しかし、ここに至るまでに、多くの女性たちが正当な評価を受けずに「ノーベル賞から見放され」ている。

〔産婦人科医〕河野美代子の更年期ダイアリー



河野美代子 / 著 高文研
2006年1月 1995円

広島で大いなる展開をしていた『月刊家族』に連載していた記事を抜粋し、まとめたもの。「行動する産婦人科医」にふさわしい日常のあれこれがつづられている。「たいへんなはずなのに、どこかおかしい」という帯の言葉がぴったりの、たくましい日々である。

子ども 戦世(いくさよ)のなかで 大石芳野写真集

大石芳野 / 著 藤原書店 2005年10月 7140円



ベトナムで、カンボジアで、ラオスで、アフガニスタンで、そしてチェルノブイリで…。犠牲者は、いつも子どもたちだ。戦場におもむきカメラとペンで子どもたちの内面にせまってきた大石芳野の80年代の作品集。「写真」の訴える力の大きさを改めて認識。

たからもの You Are My Treasure

深井美貴子 / 著 新風舎 2005年11月 2625円



自分の娘を撮った写真集。泣き顔も笑い顔も悩む姿も。作者は娘の中に、自分自身を、そして母を祖母をみているようだ。いわゆる「母の視点」とは違う、命を脈々とうけついでいくという「生きていく価値」のようなものが感じられる写真集。

ナマケモノのひるね

田辺あゆみ / 著 KKベストセラーズ
2005年10月 1523円

トップモデル田辺あゆみのエッセイ集。いわゆる「有名人エッセイ」ではない。なんとというか、すっきりしたエッセイ。

いまどきの「常識」

香山リカ / 著 岩波書店 2005年9月 735円

「お金は万能」「男女平等が国を滅ぼす」「痛い目にあうのは『自己責任』」「テレビで言っていたから正しい」etcといった、いまどきの「常識」。これを押さえれば「勝ち組」らしいけど、ホントウにそれで大丈夫?

マダム毛沢東 江青という生き方

アンチー・ミン / 著 矢倉尚子 / 訳
集英社 2005年11月 3150円

毛沢東夫人江青の数奇な運命を描いた伝記。著者は、江青に抜擢されて革命劇の主演になり、その失脚によってアメリカに亡命した人。

近代日本の「手芸」とジェンダー

山崎明子 / 著 世織書房
2005年10月 3990円

「主婦の手仕事」は永遠にアマチュアの無名の仕事であり、それゆえに近代的家族のイメージとして、また労働の国家統治として象徴的に扱われたのだという。「手芸論」というにふさわしい画期的な分析の書といえよう。



子どもとキャリアどちらもほしい 30代は二度こない

円より子 / 著 ミネルヴァ書房 2005年11月 1890円
これから30代を迎える女性たちに、「子どももキャリアも両方ががんばって!!」と伝える応援歌。何歳になってもチャレンジすることはできるが、子どもを産むのは30代が一番と。

風の流れて ラジオ生活五十七年

秋山ちえ子 / 著 講談社 2005年10月 1890円

「秋山ちえ子の談話室」などのラジオ放送と歩んだ57年間の思いが詰まっている。

本と女の子 おもいで1960-70年代

近代ナリコ / 編 河出書房新社 2005年12月 1680円

60年代から70年代にかけて女の子たちがあこがれた4つの女の子向け読み物を材料に、「本と女の子」を考察。

それでいいのか蕎麦打ち男

残間里江子 / 著 新潮社 2005年9月 1470円

「団塊世代」が大量に定年を迎える07年問題を前に、著者は同世代の男たちによびかける。これから先、20年、蕎麦を打って家族や友だちに振る舞う、「文化的生活」だけでいいのか。

女の人生、自分しだい

蛭子屋朋子 / 著 ごま書房 2005年10月 1365円

迷っている女性たちに勇気がわくようにと、「ライフ・プロジェクト」をマネージする本。

元気! 勇気! 本気! 関西で活躍する輝く女性50人

株式会社もっと出版企画部 / 編

パレード / 発行 星雲社 / 発売 2005年12月 1050円
関西の実業界で活躍する50人の女性たちを紹介。

佐多稲子と戦後日本

小林裕子・長谷川啓 / 編 七つ森書館
2005年11月 2940円

明治、大正、昭和、平成と波乱の時代を創作活動に生きた佐多稲子に関する評論や稲子自身のエッセイ等を並べている。稲子が支えてきた「新日本文学会」の終焉に際して出版された。反戦や女性解放の先頭にたって充実していた稲子の生と文学にふれることができる。



音楽サロン 秘められた女性文化史

ヴェロニカ・ペーテ / 著 早崎えりな・西谷頼子 / 訳
音楽之友社 2005年11月 3360円

1830年頃ヨーロッパのサロン風土を席捲した音楽サロン。しかし、ここで言及されるのは、男性たちの作品だけである。表舞台に立てなかった女性たちは、サロンニエル(サロンの女主人)となり、音楽史の陰の主役となっていく。

貧乏クジ世代 この時代に生まれて損をした!?

香山リカ / 著 PHP研究所 2006年1月 735円

「第二次ベビーブーマー」「団塊ジュニア」と称される70年代生まれの人、1900万人。その人たちはひそかに「貧乏クジ世代」と揶揄されているらしい。しかし、「貧乏クジをひいちゃっ

たよ」とばやいてばかりでもないだろうと著者。

だから生まれてきた 赤ちゃんの伝言

宇佐美百合子 / 著 (絵) 竹中恭子
リヨン社 / 発行 二見書房 / 発売 2006年1月 1155円
素敵な言葉とイラストでつづる「赤ちゃんが生まれてきたワケ」。これを読むと、ぜったいに、生まれてきた赤ちゃんを大切にしようと思うはず。

アメリカ文学にみる女性と仕事 ハウスキーパーからワーキングガールまで

野口啓子・山口ヨシ子 / 編著
彩流社 2006年2月 2625円
「女性と仕事」をテーマに、アメリカ文学のヒロイン像を読み直す…。第1部：誇り高きハウスキーパーから女性芸術家へ
第2部：南部を証言する女たち 第3部：都市で働く女たち

(自伝・評伝)

晶子とシャネル

山田登世子 / 著 勁草書房
2006年1月 2310円

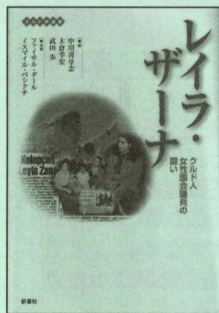
ほぼ同時代に生きながら、一人は日本で、一人はフランスで、交わることはないまま輝いた才能。しかし、著者は、この二人に「魂の姉妹」のような共通点を読み取っている。それは、一人は短歌で、一人はファッションで、＜私＞を表現したこと。



レイラ・ザーナ クルド人女性国会議員の闘い

中川喜与志・大倉幸宏・武田歩 / 著
新泉社 2006年1月 2940円

国を持たない最大民族がクルド人。複数の国家が、クルド人という民族を分断支配し、民族主義、イスラム主義のもと、クルド人を無権利状態におく。レイラ・ザーナは同化政策をとるトルコでクルド人初の女性国会議員として活動し、クルド民族の存在認知を訴え、その活動ゆえに死刑求刑された人。本書はその闘いの記録である。



シャネル

藤本ひとみ / 著 講談社 2005年10月 1575円
‘シャネル’ブランドで知られたガブリエル・シャネルの評伝。孤児として修道院に預けられてから栄光、挫折を経て現役のまま87才で逝った生涯の記録。

音楽史を彩る女性たち 五線譜のぼら2

萩谷由喜子 / 著 ショパン
2005年12月 1575円

プロの音楽家の世界も長年、女性を排斥してきた。しかし、よく調べると、そこには確かに音楽史の一コマを担った女性たちが存在している。



津田梅子とアナ・C・ハーツホン 二組の父娘の物語

亀田帛子 / 著 双文社出版
2005年12月 2940円

津田梅子とアナ・C・ハーツホンはともに協力して、津田英学塾で日本の女子高等教育に生涯を捧げる。そこに至るまでには、津田仙・梅子父娘とヘンリー・ハーツホン父娘の二代にわたる強い交流と絆があったのである。



淵澤能恵の生涯 海を越えた明治の女性

村上淑子 / 著 原書房 2005年12月 1680円
明治初期の岩手から渡米し、苦学の後帰国。各地の女学校で教壇に立ち、55才で韓国へ。女子教育の基礎を築いた。淵澤能恵の評伝。

学びひたりて 大村はま自叙伝

大村はま / 著 共文社 2005年12月 1995円
優劣を意識せずに学習する「大村教室」の創始者、実践者の大村はまの自叙伝。日本にも、こんな時代が、こんな先生がいたのだ、と感動する。2005年に98才で逝った。

旅する車椅子 デンマークに生きる難病の女性の半生

渡辺裕香子 / 著 朱鳥社
2005年10月 1155円

元気だった14才の少女が、一生、障害者として生きなければならないと宣言される。しかも、その障害は徐々に進んでいく。そんな中で少女は、結婚、出産し、人生を選択していった。30年にわたる友人の著者が、そんなアニタの人生を描いている。キーワードは「意志」。

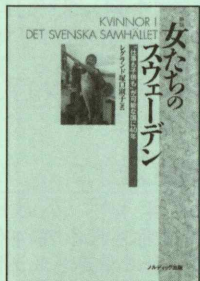


(高齢・福祉)

新版 女たちのスウェーデン “仕事も子供も”が可能な国に40年

レグランド塚口淑子 / 著 ノルディック出版 / 発行
第三書館 / 発売 2006年1月 1680円

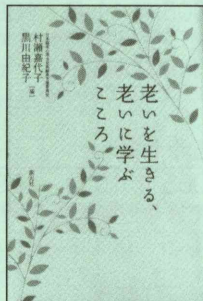
日本では特に好意的にも否定的にもとりあげられるスウェーデン。内側から見た姿はどうなのだろう。40年間スウェーデンに住んだ著者が、日常生活を通して見た内なるスウェーデン像を書いた。88年の『女たちのスウェーデン』の改訂版。賞賛だけでもけなすだけでもない等身大の視点からの描写の躍動は、今も健在である。



老いを生きる、老いに学ぶところ

村瀬嘉代子・黒川由紀子 / 著 創元社
2005年12月 1260円

2004年の中越大地震のため被災者仮設住宅に移った高齢者の気持ちをしんぼう強く聞いてきた臨床心理士たちが中心になって編まれた。6才から97才までの人々が「年齢を重ねること」をテーマに書いている。



老いてなおステキな性を 高齢期の男女の関係性を問う

高柳美知子 / 著 かもがわ出版 2005年11月 1575円
50代から80代の男女9人が、高齢恋愛、セックス、同性愛などの生と性について率直につづっている。

子ども・家族の相談援助をするために

(財)日本児童福祉協会 / 編 (財)日本児童福祉協会
2005年9月 2800円

市町村や児童相談所で子ども・家族の相談援助に携わっている職員、民間団体、カウンセラー、子どものために編まれた、相談援助の手引き書。

これでわかる介護保険制度Q&A

シリーズ 暮らしを支える福祉の制度④

袖井孝子 / 監修 ミズ総合企画 / 編著
ミネルヴァ書房 2005年10月 2100円
40のQ&Aで、介護保険の仕組み、申請から認定まで、05年改正などを説明。活字も大きく、高齢者にも読み易い。

家族介護者のサポート カナダにみる専門職と家族の協働

パム・オルゼック ナンシー・ガバマン ルーシー・バリラック / 編
高橋流里子 / 訳 筒井書房 2005年10月 1890円

カナダケベック州のCLSCという公的福祉機関のソーシャルワーカーが介護者支援の実践モデルを提示した。介護者を家族構成員のひとりとして認識し、個人として尊重し、その権利を擁護しようとしたものである。「専門職と家族の協働」を進めようとするカナダの試みである。



新しい介護保険Q&A 2006年4月改正

阿部崇 / 著 じほう 2005年11月 1890円
2006年4月から新しく施行される介護保険を知るために。

私も入りたい「老人ホーム」

甘利てる代 / 著 NHK出版 2005年12月 777円
「老人ホーム」という言葉のイメージはまだまだよくないが、「老いてもほけても安心して過ごせる高齢者の居場所」をつくり出してきた人々もいる。そんな「老人ホーム」をルポルタージュ。

〔平和・開発・エコロジー〕

辺野古 海のたたかい

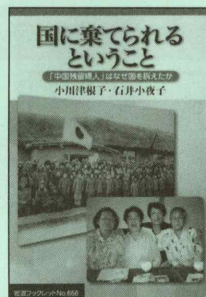
浦島悦子 / 著 インパクト出版会
2005年12月 1995円



米軍普天間飛行場の移設を辺野古沿岸部とした日米合意からまた、新たな基地闘争が始まった。カヌーや海上・陸上の座り込みで、ついにボーリング工事を止めさせた現場からの報告。沖縄の現実、日本における「軍事化とジェンダー」の問題を先鋭的に表している。

国に棄てられるということ 「中国残留婦人」はなぜ国を訴えたか

小川津根子・石井小夜子 / 著 岩波書店
2005年12月 504円



2001年12月、中国残留婦人3人が国を相手に裁判を起こした。国策にしたがって日本から送りだされたとき、3人は10代の少女。70代になった3人は、切々と国に訴える。「自分の意思で中国人と国際結婚した」というが、「開拓団」の男たちは連れ去られ、生き延びるために「売春娼」した女性も多いのだと。

北の国のリービヒ 健康と文化を守る石けん職人と市民のたたかい

大原楨子 / 著 ふきのとう書房 / 発行
星雲社 / 発売 2005年9月 1785円

北海道の地で「天ぷら廃油」から石けんをつくった先駆者篠原元次とそれを広めようと闘った市民の物語。リービヒとは「石鹸は文化の尺度」と言ったドイツの科学者。

NGOの選択 グローバリゼーションと対テロ戦争の時代に

日本国際ボランティアセンター (JVC) / 編著
めこん 2005年11月 1995円

頻発する紛争の中、活躍する国際協力NGO。「国際貢献」の美名のもとに脚光を浴びたりもするが、今は転機に立っているというのが本書の主張。国家や国連と対峙しつつ連携していかなければいけない。現場をふまえた新しいNGOの方向性とは、「合理的な不同意に向けた対話」。

生きがいを持てる人生メニュー ボランティア活動とネットワーク作り

野口桂子 / 著 パピルスあい / 発行
社会評論社 / 発売 2005年11月 1575円
環境保全や子育て支援、海外協力など様々なNPO活動、ボランティア活動で輝いている人々12人を紹介。

「民族浄化」を裁く 旧ユーゴ戦犯法廷の現場から

多谷千香子 / 著 岩波書店
2005年10月 735円

旧ユーゴの民族間の内戦は「民族浄化」と呼ばれるほどの凄まじさだったという。旧ユーゴ戦犯法廷判事を務めた著者の裁判ノートが描き出す虐殺の記録がその凄まじさをあぶり出す。



人権教育のための世界プログラム 解説と実践

平沢安政 / 著 解放出版社 2005年12月 1470円

国連によって提唱されている「人権教育のための世界プログラム」を活用し、日本の人権教育に関わる理論や実践をパワーアップさせようという目的で書かれている。

未来世代への「戦争」が始まっている ミナマタ・ベトナム・チェルノブイリ

綿貫礼子・吉田由布子 / 著
岩波書店 2005年7月 2625円

汚染地域の子どもの健康を、エコロジーとフェミニズムの交差する視点で捉え、危機的な未来の状況を照らしだす。サイエンスライターと環境問題にかかわるアクティビストの共著。

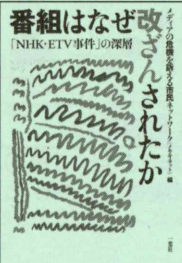
私にとっての戦後60年 あごら303号

あごら新宿 / 編 BOC出版部 2005年11月 1680円
50余人の女性がつづる「私にとっての戦後60年」。

【メディア】

番組はなぜ改ざんされたか 「NHK・ETV事件」の深層

メディアの危機を訴える市民ネットワーク(メキキネット)/編
一葉社 2006年1月 2940円



NHK教育テレビ放映の「問われる戦時性暴力」はなぜ、どのようにして改ざんされたのか。その経緯の詳細が市民ネットワークによって明らかになっている。集められている限りの証拠資料と論言で構成。メディアの危機的状況は、まさしく、現在進行中。

インターネット社会の10年 新しいインフラで変わる生活 変わる社会

(株)NTT データシステム科学研究所/編
小豆川裕子・内藤孝一・石川裕子/著
中央経済社 2005年11月 3150円

インターネットに代表されるICTは、私たちの生活をどのように変化させ、影響を与えてきたか。また、ネット犯罪などの課題をどう解決していくか。雇用、交流、学習、医療、地域社会、規範など、広範囲の視点で分析。

帝国と暗殺 ジェンダーからみる近代日本のメディア編成

内藤千珠子/著 新曜社
2005年10月 3990円

明治時代の新聞を中心としたメディアに表れた「物語」を検討。病、女、血、植民地、暗殺などを軸に、「物語」のほころびを通して、近代日本帝国社会の成立過程を論考している。



【資料】

世界の人権 2005

(社)アムネスティ・インターナショナル日本/編
(社)アムネスティ・インターナショナル日本

2005年10月 3150円

アムネスティ・インターナショナルの英語版年次報告書の翻訳。149の国、地球についての人権状況を報告している。状況はますます悪化している。



少子化と男女共同参画に関する社会環境の国際比較報告書

内閣府男女共同参画局/編 独立行政法人 国立印刷局
2005年9月 1050円

女性の労働力率と合計特殊出生率の関係の変化に着目し、両者の関係に影響する「社会環境」のあり方を把握するために、内閣府が行った調査の報告書。2000年時点では、女性の労働力率と合計特殊出生率は、相関している。

【雑誌】

現代思想 vol. 33-10 特集 女はどこにいるのか



池上善彦/編集 青土社
2005年9月 1300円

「女はどこにいるのか」を特集している。「ケアをすること/されること」(上野千鶴子)、「善いフェミニズムへ」(岡野八代)、「越境日記」(鄭映恵)、「『従属』の取引」(足立真理)など、女性をめぐる先鋭的な論考がならぶ。

労働教育センター 2005年10月 930円

「その時 均等法の扉が開いた—山野和子のたたかい」など

共同参画 21 No.21

男女共同参画基本計画改定に当たっての基本的な考え方

内閣府/編 ぎょうせい 2005年11月 600円

特集1: 男女共同参画基本計画改定に当たっての基本的な考え方 特集2: 男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰

共同参画 21 No.22

内閣府/編 ぎょうせい 2006年1月 600円

特集1は「女性のチャレンジ支援」 特集2は「政策・方針決定過程への女性の参画の推進」

いま憲法を考える あごら 302号

あごら新宿/編 BOC 2005年8月 1365円

なぜ今「憲法改正」に反対するのか(奥平康弘) 沖縄差別と平和憲法(大田昌秀)など

季刊 女も男も 105号 男女雇用機会均等法20年の足跡とこれから

労働教育センター編集部/編

クォーターリー【あつと】2号 新しい協同の時代へ

(株)ルター・トレード・ジャパン編集部パラグラフ/編集
太田出版 2006年1月 998円

「ケアの社会学・ケアに根拠はあるか」(上野千鶴子)など

『性と生をどう教えるか 第2版』26号

尾藤りつ子・性と生を考える会 編著
解放出版 2005年12月 2310円
波田埜 雅子(会員)

読んでください

この本は、尾藤りつ子さんという方の遺志を継いで、昨今のバックラッシュのさなか、教員を中心とする方々によって再編集されました。「過激な性教育って、コワイ」…そんな世論に負けないで、身近な人に伝えたいときに役立つ一冊だと思います。

プロローグは、榎原敬之さんの『世界で一つだけの花』の歌詞。かけがえない「いのち」のつながり、生命の豊かさ、家族や暮らし、アイヌの人たち、世界の識字、子どもの兵士、児童労働、子どもの権利、水問題、環境、HIV、ハンセン病、手話、障がい、年をとること、死、自死遺児、

デートDV…etc、今回の改訂では、2005年3月の住友裁判や8月にレズビアンをカムアウトした尾辻かな子さん(府議会議員)、大峰山の女人禁制など、最近の話題も掲載され、全部で66のトピックスがあります。

ページをめくっていると、一目瞭然で、私たちが地球上で生きていくことは、性とつながっていて、たくさんの解決すべき課題があることを実感させられます。

じつは当時はまったく知らなかったのですが、この本の編集者のおひとりは、私の子どもが通った小学校の先生で、「いのちの学習」を推進してくださった方でした。

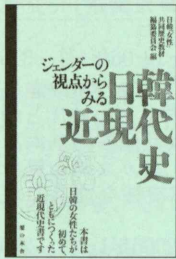
教師のための教材集として勿論おすすめですが、私は二人の子どもの保護者として、親の立場の人にこの本を読んでもらいたいと思っています。感謝をこめて。

(ウィメンズ ブックスストア ゆうで扱っています)

編集長の著者インタビュー

ジェンダーの視点からみる日韓近現代史

日韓「女性」共同歴史教材編纂委員会編 梨の木舎
2005年10月 2940円



「画期的」といってよい本である。韓国と日本、在日朝鮮人の女性研究者、活動家たちが共同して、ジェンダーの視点から見た日韓近現代史教材をつくりあげた。相次ぐ中学歴史教科書歪曲問題に連帯して取り組んだ経験から、「一国の側のみの歴史的事実では実情を知ることが難しいということが分かり、二カ国で起きたことの接点を一つの『出来事』として編みなおしてみよう」(編集を終えて)とした試みである。

日本帝国主義の拡張に始まり、韓国併合(韓国強占)、

著者インタビュー 第20回

『ジェンダーの視点からみる日韓近現代史』の
日本側編集責任者 鈴木 裕子さんに聞く

(女性史研究家)



— : 2001年に顕在化した歴史教科書歪曲問題に取り組んだことが契機となって、この本が出版されたとのことですが

鈴木 : 歴史教科書不採択運動を共闘するため、たびたび来日されていた韓国挺身隊問題対策協議会常任代表の金允玉さん(当時)に共同教材づくりを提案したところ、金先生が韓国に帰って前挺身隊共同代表の尹貞玉先生らと相談され、快く応じてくださったのですが、それ以前からの日本軍「慰安婦」問題解決に向けての連帯運動の経験がその背景にはあります。
日本における韓国の近現代史に関するこの手の教材はほとんど見あたりませんので、客観的にも意義のある出版だったと思っています。

鈴木裕子さん(左)
右は尹貞玉さん

3.1 独立運動、戦時動員と日本軍「慰安婦」、日本敗戦、ウーマン・リブと社会運動、女性国際戦犯法廷など、日韓間に次々とおこる歴史的事件の中で、女性たちはどのように生き、何をし、どう扱われたのか。「被害者としての女性」だけでなく「加害者としての女性」の姿をも見据えながら、日本と韓国両方の立場から、かつ、ジェンダーの視点、人権確立の視点を鮮明に打ち出した記述が続いている。

読み進むうち、「知らなかった!!」と臍をかむ思いがわく。私たちは、近現代史、特に韓国のそれを、どのくらい真正面から学んできただろう。

日韓市民間の歴史認識の深い溝をうめるには、こういう試みを地道に積み上げていくしかないと思う。

重たい本である。しかし、この本が、今、日韓の女性たちの共同作業で上梓されたことは、大いに誇ってよいと考える。

(M)

— : 日本側51人、韓国側13人の執筆陣をまとめるのは、大変だったのではありませんか

鈴木 : 4年にわたって、何度も協議会、シンポジウムを重ね、最後はわたくしが日本と韓国を何回も行き来して仕上げたのですが、歴史研究や叙述のあり方を始めとして、調整が難しかった点が沢山あったことは事実です。日韓の女性たちの「連帯」による信頼関係がなかったら、とても仕上がらなかったでしょう。

— : 韓国の女性たちの苦闘と運動の躍動感には、本当に感嘆しました。

鈴木 : 日本では今までほとんど紹介されてこなかったことから、初めて知る日本人読者も多いと思います。とにかく、韓国の女性たちの真の姿を日本の人たちに知ってほしいのです。

— : 厳しい時代なのですが、この本の反響はいかがですか?

鈴木 : 韓国では、多くのメディアに取り上げられ、評判になっていますが、日本の全国紙はとりあげてくれませんね。でも、この共同教材づくりによってわたくしたちが得たものは少なくありません。不十分な点も多いのですが、これを最初のステップにして、日韓市民による共同研究を積み重ねていきたいものです。今こそ、こういうアプローチがさらに必要だと痛感します。(聞き手:森屋裕子)

書評 『生き延びるための思想—ジェンダー平等の罫』 上野千鶴子著 岩波書店 2006年2月

中西豊子(松香堂書店創業)

本書は、1998年から今までに書かれて来た国家、暴力、ジェンダーという問題系をテーマにした論考と、書き下ろしの「アジア女性基金の歴史的総括のために」を加えてまとめたもの。著者が今まで問うてきた「ナショナリズムとジェンダー」に関する論考集成の感がある。

冒頭にある「市民権とジェンダー」では市民権という概念のジェンダー的再検討で見えてきた真実のすがた、近代社会の公領域と私領域の分離原則にも切り込んで、不公平の正体を明かす。「女性兵士の構築」「対抗暴力とジェンダー」「『プライバシー』の解体」「『民族』か『ジェンダー』か」「ナショナリズムを超える思想」「『国民国家』論の功と罪」「銃後という思想」が収められているが、どの項も、イラク戦争の女性兵士による虐待事件のような事態も受けて、まさに今の問題提起でもある。まるで謎解きをよむような興味も加わって読み応えがある。

リベラルフェミニズムの主張してきた「男並みになること」「男の追いつけ追い越せ」の思想は、ジェンダー平等の罫に落ちることになる、国家暴力に加担するまでに至ると、以前から警鐘を鳴らしてきた著者が、明快な論理で自説を展開。社会の中のあらゆる暴力的なもの、男仕立ての「死ぬための思想」を批判し、「弱者が弱者のままで尊重されることを求める思想」そして「生き延びるための思想」としてのフェミニズムの立場をはっきりさせている。

国や民族や帰属するあらゆるものと個人の関係性について、とことん考えてみると、「命より尊い価値」のあるものが本当にあるのかという問いにいきつく。著者の答えはきっぱりしている。

著者は、フェミニストからもアンチフェミからもよく誤読、誤解をされてきた。時には彼女の言葉の一部を取り出し、わざと曲解してそれを流布する輩もいる。そんな言説に対する反論も含めて、著者の真意がこの本では詳しく述べられている。論文を読むのは苦手という方にお勧めは、最後に収録されているインタビュー「補論『生き延びるための思想』」(雑誌「at」発表)。いい聞き手を得て論点が判りやすい。



ミニコミ・ミニコミ

ウィメンズブックストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です

■「あなたとわたしの性」 72号 どうなる？次世代の子どもたち／73号 子どものためのシェルター『カリヨン子どもの家』／74号 子どもへの性犯罪と性教育の重要性／75号 アジア・太平洋地域エイズ国際会議報告／76号『発達障害児特別支援教育』その問題点を考える
性を語る会 2004年12月・2005年3・6・9・12月 315円

■「いこ☆る」 第7号 特集：屋嘉比さんおめでとう 京ガス男女賃金差別裁判和解報告・『未来たちの詩』上演！合評ワーク
働く女性の人権センターいこ☆る編集部 05年12・06年1月合併315円

■「季刊iMA」 第21号 人生を楽しむためにはまず健康チェック！
い・ま編集部 2006年1月 480円

■「女たちの21世紀」 No.44 特集：財政にジェンダー公正の視点を—ジェンダー予算分析の挑戦
アジア女性資料センター 2005年11月 1260円

■「女のためのクリニックニュース」 No.247 女と健康フェスティバルを終えて／No.248 1年をふりかえって／No.249 フェスティバル基調講演報告
ウィメンズセンター大阪 2005年11・12・2006年1月 420円

■「女の叛逆」 53号 特集：「男女平等は害悪」の嵐
久野綾子 2005年12月 420円

■「GAZETTE」 NO.87 2005.9.11 総選挙のテレビ報道
NPO法人FCT市民のメディア・フォーラム 2006年1月 840円

■「関西こども文化協会ニュースレター」 No.17 特集：ニートと呼ばれる若者たち①『社会を恐れる若者たち』／No.18 ニートと呼ばれる若者たち②『意欲があっても働けない』
NPO法人関西こども文化協会 2005年夏・秋 315円

■「教育大阪 Vivo la Vita」 650号 特集：安全への取り組み「子どもを守る地域力」／651号 特集：輝け！10代 それぞれの1.17／652号 特集：どうなってるの？「子どもとインターネット」
(財)大阪市教育振興公社 05年11・12・06年1月 350円

■「くらしと教育をつなぐWe」 138号 特集：次世代へつなぐ／139号 特集：若者の自立支援／140号 特集：〈弱さ〉を糧にシャカイを変える フェミックス 05年12・06年1月・2・3合併 680円

■「Green Letter」 VOL.40 インタビュー「人とのつながりが私の力私の宝」R&R木の創作工房 川口洋子
大阪心のサポートセンター 2006年1月 525円

■「強姦救援センターニュース」 No.60 電話相談を受けて 学生さんへのメッセージ・米ネバタ州The Rape Crisis Center スタッフ シズエ・ヒルさんに聞く 東京・強姦救援センター 2006年1月 105円

■「里の家だより」 NO.60 共同参画と熟年離婚を考える／「絵本春夏秋冬」14号 絵本とジェンダー：子どもが生まれたら…男の子？女の子？
里の家編集スタッフ 2006年1月 315円

■「ジェンダーフリーで綴るNPO発信レポート かえこのちよっと言わせて」 No.4 NPO法人SEAN 2005年10月 420円

■「女性としごと」 NO.44 「安心して働きつづけることをあきらめない」—本ものの雇用平等をめざして
労働大学出版センター 2005年12月 500円

■「シネマ・ジャーナル」 Vol.66 映画祭特集 第18回東京国際映画祭・あいち国際女性映画祭・山形国際ドキュメンタリー映画祭・東京フィルメックス・釜山国際映画祭 テス企画 2005年12月 800円

■「消費者情報」 No.366 特集：食の安全最前線／No.367 特集：人と動物のコミュニケーションライフ／No.368 特集：今、求められる企業の姿勢
(財)関西消費者協会 05年11・12・06年1月 500円

■「職場の人権」 37号 フォーラム「若者と仕事」—若者の「隣」には誰がいるのだろうか？ 研究会「職場の人権」 2006年1月 840円

■「世界女性会議 ネットニュース」 No.56 ウィン・ティティクシャさんを大阪に迎えて
世界女性会議ネットワーク関西 2006年1月 630円

■「New」 「それゆけ女たち」 No.149 均等法改正にセクハラ対策の強化を！／No.150 厚生労働省から改正案が提案されるセクシャルハラスメントと闘う労働組合あぶる 2005年11・12月 210円

■「ひとりから」 第28号 日本人への遺言 栗栖継ほか
編集室ふたりから 2005年12月 1050円

■「ファイト・バック」 Vol.64 ☆サバイバーからの手紙(6)—「支え」となったもの 性暴力を許さない女の会 2006年1月 525円

■「フィフティ・ネット」 VOL.18 ○いよいよ正念場 男女共同参画推進条例の動向と07年統一地方選挙

NPO法人フィフティ・ネット 2005年12月 525円

■「フェミニストカウンセリングニュース」 No.49 逆風に抗す／No.50 均等法改正の審議は大詰めに／No.51 第5回全国大会開催「フェミニストカウンセリングの未来にむけた実践」大会実行委員長 河野貴代美
日本フェミニストカウンセリング学会 05年10・12・06年1月 315円

■「ふえみん」 2774号 子どもの権利ってなに？／2775 改憲暴走を止めよう／2777 いま「働く」を考える／2779 この時代と向き合うために2006年をこんな年に／2780 男女共同参画基本計画閣議で決定「ジェンダー」の記述残る／2781 京ガス男女賃金差別裁判勝利和解で解決！／2782 6年に及ぶ凄惨な性暴力被害を訴える・栃木
ふえみん婦人民主クラブ 2005年11・12・2006年1・2月 210円

■「fujin-tsushin」(婦人通信) No.570 戦後60年世界から見た日本／No.571 乳がん／No.572 2006年3・8国際女性デー
日本婦人団体連合会 2005年12月・2006年1・2月 380円

■「Voice」 第158号 特集：11/18戸籍続柄裁判、最高裁上告棄却—丸17年半の続柄裁判を終えて—
なくそう戸籍と婚外子差別・交流会 2005年11・12月合併 210円

■「VOICE OF WOMEN」 No.267 いこ☆るから報告：エンパワメント講座「ケアワーカーの悩みを考える」・均等待遇ウェブ／No.268 例会報告：「問われる戦時性暴力」番組改定問題を授業する
日本女性学研究会 2005年12・2006年2月 158円

■「月刊むすぶ」 No.418 場—共同体は今／No.419 いつまで続くのか廃棄物処分場との闘い！／No.420 住 マンションと景観問題ほか
ロシナンテ社 05年11・12・06年1月 840円

■「メンズネットワーク」 76号 特集：北京+10に向けて／78 第10回男のフェスティバル特集号
メンズセンター 2005年5・8月 525円

■「れ組通信」 No.220 ○リブと私とレズビアン／No.221 ○尾辻かな子さんインタビュー／No.222 同性婚を認める社会は多様性を認める社会？
れ組スタジオ・東京 05年12・06年1・2月 525円

■「WWNワーキング・ウィメンズ・ネットワーク ニュースレター」 No.41 「改定均等法に間接差別禁止の明記を！」
WWN 2005年10月 525円

■「わいふ」 317号 三十周年記念号特集「私の三十年」
わいふ編集部 2006年1月 620円

■「女(わたし)のからだから」 No.238 「第10回女と健康国際会議」報告2弾／No.239 北京JAC第10回全国シンポジウム『「北京」から10年、「カイロ」から11年、「性と健康」はいま—』報告&資料／No.240 オランダのビル事情・上野千鶴子さん講師拒否問題
SOSHIREN・女(わたし)のからだから 05年11・12・06年1月 315円

＜単発もの＞

■「男だから呪縛、男だから自由—家族を愛し、仕事を思い、自己を守る男たち—」
NPO法人生活企画ジェフリー 2005年3月 1050円

■「災害と女性～防災・復興に女性の参画を～資料集」 ■「女たちが語る阪神・淡路大震災」
ウィメンズネット・こうべ 共に2005年11月 共に840円

■「草の根女性白書 大阪の女性は今Part 5 2005年度版」
国際婦人年大阪の会 2005年11月 1260円

■「京都子連れパワーアップ情報8号特集：子連れで行けるレストラン50件」
2005年12月 1050円
NPO法人子育て支援コミュニティおふいすパワーアップ

■「アジェンダ-未来への課題-第11号 特集：ジェンダー・バッシングに抗して」
アジェンダ・プロジェクト/編 2005年12月 500円

■「ドメスティック・バイオレンス(DV)被害者の自立支援に関する調査報告書」
NPO法人全国女性シェルターネット 2005年8月 1050円

■「ブックレット⑤ DVシェルターサポートスタンダード～使いこなそう！DV防止法～」 ■「⑥ DV被害を受けた子どものサポートマニュアル」
NPO法人女のスペース・おん 共に2005年9月 共に735円

■「デートDVを知っていますか」
NPO法人DV防止ながさき編 2005年10月 630円

★ビデオリスト (ウィメンズブックストア ゆう で扱っているビデオです。比較的新しいものののみ)

暴力 (DV・セクハラ・戦時下の暴力・他)						
	タイトル	内容紹介	発売元	時間(分)	制作年	L 価格
1	アウシュビッツからベルリンへ加害の記憶をたどる旅	自国の加害の歴史に向き合う姿勢をアウシュビッツやベルリンの担当者から学ぶ	ビデオ塾	28	2003	3000
2	イラク戦争の真実～被害の実相とアメリカの戦略～	イラク市民の被害、アメリカの戦略、国際社会と反対運動、日本の進路など		25	2003	5000
3	女性国際戦犯法廷 バグ最終判決報告	最終判決が出されたバグでの女性たちの声と判決の内容	ビデオ塾	33	2002	20000
4	地雷を踏んだ象	地雷を踏んでしまった象のモーターが手術を受けることに…		24	2001	18000
5	大娘たちの戦争は終わらない	中国山西省・黄土の村の性暴力	ビデオ塾	58	2004	20000
6	沈黙の歴史をやぶって「女性国際戦犯法廷の記録」	2000年12月東京で開かれた法廷の記録	ビデオ塾	64	2001	20000
7	DV 根絶への道 前編	米国東海岸の挑戦「行政法律編」	女のスペース・おん	30	2001	6000
8	DV 根絶への道 後編	米国東海岸の挑戦「ケーススタディ編」	女のスペース・おん	30	2001	6000
9	ドメスティック・バイオレンスーDV防止法のもとでの支援ー	DV 防止法のもとでの自立支援の様々な試み	桜映画社	38	2002	9500
10	ドメスティック・バイオレンス2ーよりよい援助のためにー	DV 被害者支援に実際に携わる人たちの話し合いから、被害者への援助や対応について考える教材	桜映画社	30	2004	9975
11	ドメスティック・バイオレンスは犯罪です 2005	改正 DV 防止法を使いこなすために		25	2005	6000
12	日本の「慰安婦」問題	「慰安婦」にされた女性たちと、元兵士たちによる加害の事実の告白	ビデオ塾	11	2001	20000
13	ビルマの「日本軍慰安婦」	1997年～2000年の現地調査の記録		40	2000	20000
ジェンダー・セクシャリティ						
	タイトル	内容紹介	発売元	時間(分)	制作年	L 価格
14	「越境する女たち」～ビデオドキュメント～	セクシュアリティ・ジェンダー・身体をテーマにした女たちの記録	ウィメンズネットワーク	85	2001	10000
15	「隠れたカリキュラム」を考える	隠れたカリキュラムからジェンダー・フリーな教育について考える	桜映画社	31	2000	8000
16	ジェンダー・フリーな社会をめざして 第1巻	ジェンダーって何? ～自分らしさの発見～	ジェムコ出版	40	2000	20000
17	ジェンダー・フリーな社会をめざして 第2巻	彼女たちの挑戦 ～女性たちの多様な働き方～	ジェムコ出版	40	2000	20000
18	ジェンダー・フリーな社会をめざして 第3巻	今どき「女と男」事情 ～恋愛・結婚・子育て～	ジェムコ出版	40	2000	20000
19	ディア ターリ	セクシュアリティを問いつけるターリの主張	ワーク・イン	42	2001	20000
高齢・福祉						
	タイトル	内容紹介	発売元	時間(分)	制作年	L 価格
20	スウェーデンの葬送と高齢者福祉：変わる家族の絆	葬送の仕方や福祉を通して新しい家族の絆を探る (サブテキスト付)	ウィメンズブックストア 松香堂	60	1997	26000
21	ふれあうまち	子どもが安全に暮らすことのできる「まちづくり」を目指す向島物語	シグロ	55	1995	45000
22	老親	介護で力尽きるまえに自分を生きたい。祖母・母・娘涙と笑いの自立と共生	パオ	112		68000
こころ・癒し・からだ						
	タイトル	内容紹介	発売元	時間(分)	制作年	L 価格
23	アイ・ドール	人形の変遷を通しバービー症候群と言われるアメリカ女性像を描く	スタンス・カンパニー	57	1996	25000
24	ウーマンズライフ 心とからだ・くらしシリーズ 第1巻	それからの季節・自然の時のめぐり 更年期を考える-	桜映画社	30	1995	40000
25	ウーマンズライフ 心とからだ・くらしシリーズ 第2巻	こだわりから優しさへ 中高年の性を考える	桜映画社	33	1996	40000
26	ウーマンズライフ 心とからだ・くらしシリーズ 第3巻	中年からの私づくり 4人の女性の場合 (3巻セット価格 9000)	桜映画社	31	1997	40000
27	わたしが suki	心の居場所を求める子どもたちと、真剣に向き合う大人たちとのドラマ	パオ	88	1998	68000
仕事・家庭・子育て・家族						
	タイトル	内容紹介	発売元	時間(分)	制作年	L 価格
28	解雇される女性～NOという勇気～	働く女性必見のビデオ! 解雇について楽しく必須情報が得られます	ビデオ工房 AKAME	27	2004	20000
29	21世紀を切り開く住友裁判 世界に訴えた日本の男女差別	住友金属・住友化学・住友電工・住友生命の女性差別を世界に告発する	WWN	25	2001	10000
30	未来をひらく女達～パート・派遣の現場から～	派遣・フルタイム・パート・介護労働者・公務非常勤職員たちの思い	ビデオ塾	23	2004	10000
31	離婚を選んだ女たち Part 3 こども	子どもたちにとって両親の離婚とは何なのかを探る	ビデオ工房 AKAME	29	2002	16000
その他						
	タイトル	内容紹介	発売元	時間(分)	制作年	L 価格
32	彩なす首里の織物 宮平初子	琉球王朝時代から続く首里の織物を現代に蘇らせた宮平初子のドキュメント		40	2003	50000
33	30年のシスターフッド ～70年代ウーマンリブの女たち	1970年代、かけがえのない「私」を生きたいと声をあげた女たちの Herstory		57	2005	20000
34	戦争に沈黙しない人々		ビデオ塾	23	2003	20000
35	松井やより 全力疾走	死と向かい合った松井やよりさんの壮絶な生き方の記録	ビデオ塾	25	2003	6000
36	わかった女の発見		ビデオ工房 AKAME	16	2003	15000
37	私を柴刈りに連れてって	岡山市男女共同参画社会形成の促進に関する条例	千里コーレション	28	2002	3790
38	パワー・ハラスメント①パワー・ハラスメントとは何か	働きやすい職場を目指して	日本経済新聞社	20	2004	セット
39	パワー・ハラスメント②パワー・ハラスメントとを生まない職場づくり	働きやすい職場を目指して	日本経済新聞社	20	2004	76000
40	ジェンダーにとらわれない職場の常識 ①	キャリア開発の考え方	日本経済新聞社	23	2004	セット
41	ジェンダーにとらわれない職場の常識 ②	キャリア継続のための健康とコミュニケーション	日本経済新聞社	23	2004	80000

※価格はライブラリー価格です。個人でご購入の場合は価格が異なる場合がありますので、その旨お申し出ください。

ウィメンズブックス

WBからの風

『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです

ウィメンズブックストア 5
10・11・1月ベストセラーTOP

- 1 かけがえのない、たいしたことのない私
田中美津/著 インパクト出版会 2005年10月 1890円
- 2 地図でみる世界の女性
ジョニー・シーガー/著 原民子・木村くに子/訳
明石書店 2005年2月 2625円
- 3 40歳からのキャリア戦略
沼波正太郎/著 新水社 2005年7月 1470円
- 4 個人家族が国家にねらわれるとき
憲法24条を活かす会/編 岩波書店 2005年6月 504円
- 5 ジェンダー・フリー・トラブル
木村涼子/編 白澤社/発行
現代書館/発売 2005年12月 1890円

みなさまのまわりに「ウィメンズブックス」をぜひお勧めください

『ウィメンズブックスクラブ』入会のご案内

- メール FAX 電話のご注文で迅速発送
- 送料：会員割引サービス。会員の方には、入金確認前でも発送いたします。
- 年間900冊の新刊書籍情報、ミニコミ案内、特集などを満載した機関誌「ウィメンズブックス」を年4回お送りいたします。
- 会員のみなさまの著作紹介、関係する冊子などの委託販売をお受けします。
- 入会は随時受け付けています。詳細はご連絡ください。
 - 年会費（年度は4月から翌年3月・入会金は不要です）

個人会員	3000円
海外会員・団体会員	3800円

リスト書籍をご希望の方へ

同封の振込用紙の通信欄、又はFAX注文表に書名、書籍代（消費税込み）を書いてお申送ください。下記の送料共でお振込くださいますようお願いいたします。

HPのご注文欄やメール・電話でのご注文もお受け致しております。

※ リスト書籍以外のご注文もお受け致しております。

〈送料〉

個人会員	書籍代（消費税込み）が15000円以上の送料は無料
	書籍代（消費税込み）が15000円未満の送料は上限300円
海外会員・団体会員	別途請求をさせていただきます

○ 自費出版承ります。ご相談ください。○

店舗／ウィメンズブックストア ゆう

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49 ドーンセンター1F
 電話 06-6910-8627 FAX 06-6910-6115
 E-mail info@womens-books.jp
 郵便振替口座 00900-5-309395

火～金：午前10時から午後7時
 土・日・祝：午前11時から午後6時30分
 定休日：月曜 ドーンセンター休館日

働いていくためのヒントをこの本で！

『仕事論 ～先輩に聞く、女性と就職～』

ドーンセンター（大阪府立女性総合センター）/編著
 発行/アルゴ 発売/西日本出版 1365円 2006年2月

ドーンセンターではこのたび、就職活動を控えた女子学生や転職・再就職を考える女性たち、また働くことや仕事について悩む女性など、社会の入り口に立つ後輩たちにむけて、様々な困難にむきあいながら働き続けてきた先輩からのエールがいっぱい詰まった新刊本を出版しました。

社会の入口に立つみなさんにエールを送り、その背中をそっと後押しするロールモデルからのメッセージ集です。



● もくじより

【1章】対談 香山リカ×竹中恵美子（コーディネーター田中京子）
 「仕事が私にくれたもの……自尊心、かな」

【2章】インタビュー

先輩たちに聞く、働くこと、働き続けること。

【3章】 竹中恵美子先生に聞く「働く女性の60年」

【資料】 全国の女性／男女共同参画センター
 全国のジョブカフェ

ドーンセンターの他、全国の書店、ウィメンズブックストアゆうでも扱っています。

女性センター、女性政策課、研究室、図書館向けサービス

リストアップ、各種配本の迅速手配、データ管理、コーティングなど

原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよせください。
 次号の締め切りは2006年5月5日です（発行予定日2006年5月25日）

WEBショップ展開中

<http://www.womens-books.jp>

メルマガ発信中

月一回の配信。編集長からのお薦め新刊本案内が中心です。

登録は info@womens-books.jp までどうぞ

■ ‘ゆう’ だより

◎ 巻頭言で木村さんも言及されているように、「上野千鶴子さんの講演に対する東京都の介入問題」に対して、多くの研究者、市民が声をあげ、地元の議員やマスコミも追及しています。

曲解やこじつけをもとにした声高なバッシング、内側からのしめつけは、全国の女性センターや行政現場に「萎縮効果」をもたらしていますが、もうこのくらいで、跳ね返したいものです。

‘差異’を強調しがちな研究者が短時間にこれだけ結集し、活動する市民とともに行動したことは画期的なこと。「もうこのくらいで、跳ね返したい」思いがピークに達しているのかとも思います。

（ウィメンズブックス編集長：森屋裕子）